



目次

- 1 豊明市の概況
- 2 介護予防・認知症・生活支援
- 3 地域リハ・医療介護連携**
- 4 豊明団地の取り組み（住まい）

医療介護人材育成事業

地域の職能団体組織化支援

これまで事業所外のつながりがなかった療法士、看護師、介護支援専門員等が、地域包括ケアを担う職能団体としての専門的な立場を確立し、責任を果たしていくため、地域組織を設立。

地域
組織
あり

豊明市医師会

豊明東郷薬剤師会

歯科医師会



豊明市地域包括ケア連絡協議会
東名古屋医師会地域包括ケア検討会

職能
団体
組織
化

豊明市看護連絡協議会

豊明市リハビリテーション
連絡協議会

豊明市介護支援専門員
連絡協議会

地域の同職種代表者として、出席・発言し、決定事項の拡散

地域リハビリテーション活動支援事業

①通所・訪問 C型集中支援

STEP1 集中介入期

元気アップ集中リハビリ

3ヶ月から6ヶ月（週1～2回）で、通いと訪問によるリハビリテーションを行い、身体機能の回復を行う。

○利用回数/全30回

○実施場所/市内デイケア事業所（3箇所）



企画にあたっては、豊門市リハビリテーション連絡協議会が、週1回のミーティングを重ね、プログラム内容、評価方法等を協議して決定



②地域ケア会議への協力・参加



総合事業対象者や軽度介護者のケアカンファレンスに参加、助言。

③指導者フォローアップ講習



指導者のスキルアップ、意識統一

④指導者へ出張お助け講座



参加者の状態を評価、リスク把握と対処方法を本人・指導者へ助言する。

⑤維持向上のための 運動頻度・強度マニュアル作成

⑥保険外サービスへの協力

ICT「いきいき笑顔ネットワーク」の活用

ICTを利用した医療福祉統合ネットワーク、介護保険新規申請時に同意書取得取得



いきいき笑顔ネットワークの利用・登録状況 H28.10現在

患者登録者数 520人
 (参考) 豊明市の介護認定者数 約2,330人
 今までの患者登録記事数 約8,500件



- 登録医療機関・介護関係機関 146事業所
- ・医師会
 - ・藤田保健衛生大学病院
 - ・歯科医師会
 - ・行政・包括
 - ・薬剤師会
 - ・障がい者相談支援センター
 - ・居宅介護支援事業所
 - ・デイケア
 - ・ヘルパー事業所
 - ・老健施設
 - ・訪問看護、訪問リハビリ など



訪問看護



医師による往診

行政が介護保険新規申請時に利用同意を取得しておくことで、ICTを医療介護の「標準ツール」とし、主治医、ケアマネジャー、看護師、リハ職等の情報共有を円滑にし、統合ケアを実現する

入退院連携に関する政策研究

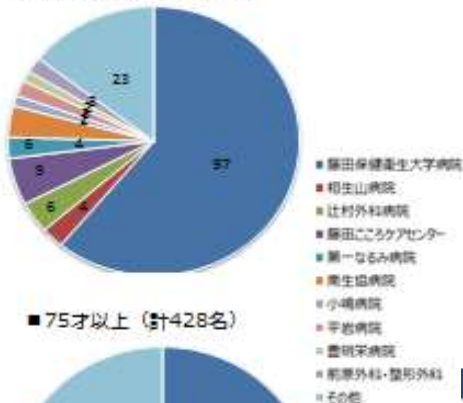
豊明市民の入院状況（平成27.7入院診療分）

■65才以上の入院先医療機関

医療機関名	65~74	75~	計
藤田保健衛生大学病院	97	182	279
相生山病院	4	63	67
辻村外科病院	6	31	37
藤田こころケアセンター	9	19	28
第一なるみ病院	4	17	21
南生協病院	6	9	15
小嶋病院	2	8	10
平岩病院	3	6	9
豊明米病院	2	6	8
前原外科・整形外科	3	5	8
その他	23	82	105
計	159	428	587

・藤田保健衛生大学病院の占める割合は、**47.5%**
 ・市外で連絡の多い相生山病院、辻村外科病院、第一なるみ病院、南生協病院に、140人(23.9%)が入院。

■65才~74才（計159名）



■75才以上（計428名）



国保・後期高齢レセプトの独自集計
市民の入院・転院動向を分析。
 連携すべき医療機関はどこか？
 対象（医療機関・診療科目）を絞って連携を進めることが効率的

退院支援地域連携実証事業 ケース2 入退院を繰り返したケース

■ケース概要(No.8)

- ・本人状況 Bさん 89歳男性 妻と2人暮らし
入院経緯：認知性肺炎（7/26～）
- ・介護申請 申請者：娘（市内在住） 申請日：7/31
※ケースワーカーより勧められ申請
- ・診療科 保大HP消化器内科



■申請時、娘さんからの聞き取り

- ・病院でリハビリ中。リハビリを受けて歩けるようになるといい。
- ・住宅改修も必要かも知れない、と思っている。
- ・前立腺肥大による排尿障害がある。

■入院から現在までの動向と支援状況

居場所	保大HP			自宅		保大HP			自宅		保大HP		相生山HP
	入院	申請	調査	退院	認定	再入院	退院	再入院	退院	再入院	退院	再入院	転院
日付	7/26	7/31	8/11	8/13	9/1	9/26	10/8	10/29	12/7~				
経過日数	0日	5日	16日	17日	35日	60日	72日	93日	101日~				
本人状況	・認知性肺炎				・要介護2	・認知性肺炎				・認知性肺炎			・嚥下訓練
本人・家族支援				↑ 8/14 ・包帯 ・訪問 ・訪問 →居宅紹介 ☆居宅サービス開始	↑ 8/17		↑ 10/8 ☆居宅サービス						

藤田保健衛生大学病院（急性期病院）の入院患者の患者動向を追跡調査（54ケース）在宅療養生活の課題を分析
在宅支援の不足により再発、再入院を繰り返す実態が浮き彫りに。

レセプト分析研究

*レセ診断名では見えない隠れた疾患や病態、生活習慣も検討

		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
年齢		X+1歳	X+2歳	X+3歳	X+4歳	X+5歳	X+6歳	X+7歳	X+8歳	X+9歳
要介護度	元気	元気								
	虚弱			虚弱						
	支援1					支1				
	支援2				支2	急性硬膜下血腫 入院			介1	
	介護1						老健入所			介2
	介護2							脳梗塞再入院		
	介護3								急性肺炎 心不全	
	介護4									
	介護5									
	死亡									死亡
医療受診状況						糖尿病 高血圧症 脂肪肝 脳梗塞 狭心症 がん 筋・骨格				
生活習慣病						入院、外来の通院や利用状況、履歴、服薬や生活など				
介護保険						介護保険の利用状況やレンタル品、住宅改修など				
年間給付費（単位：千円）						334	537	755	793	3460



目次

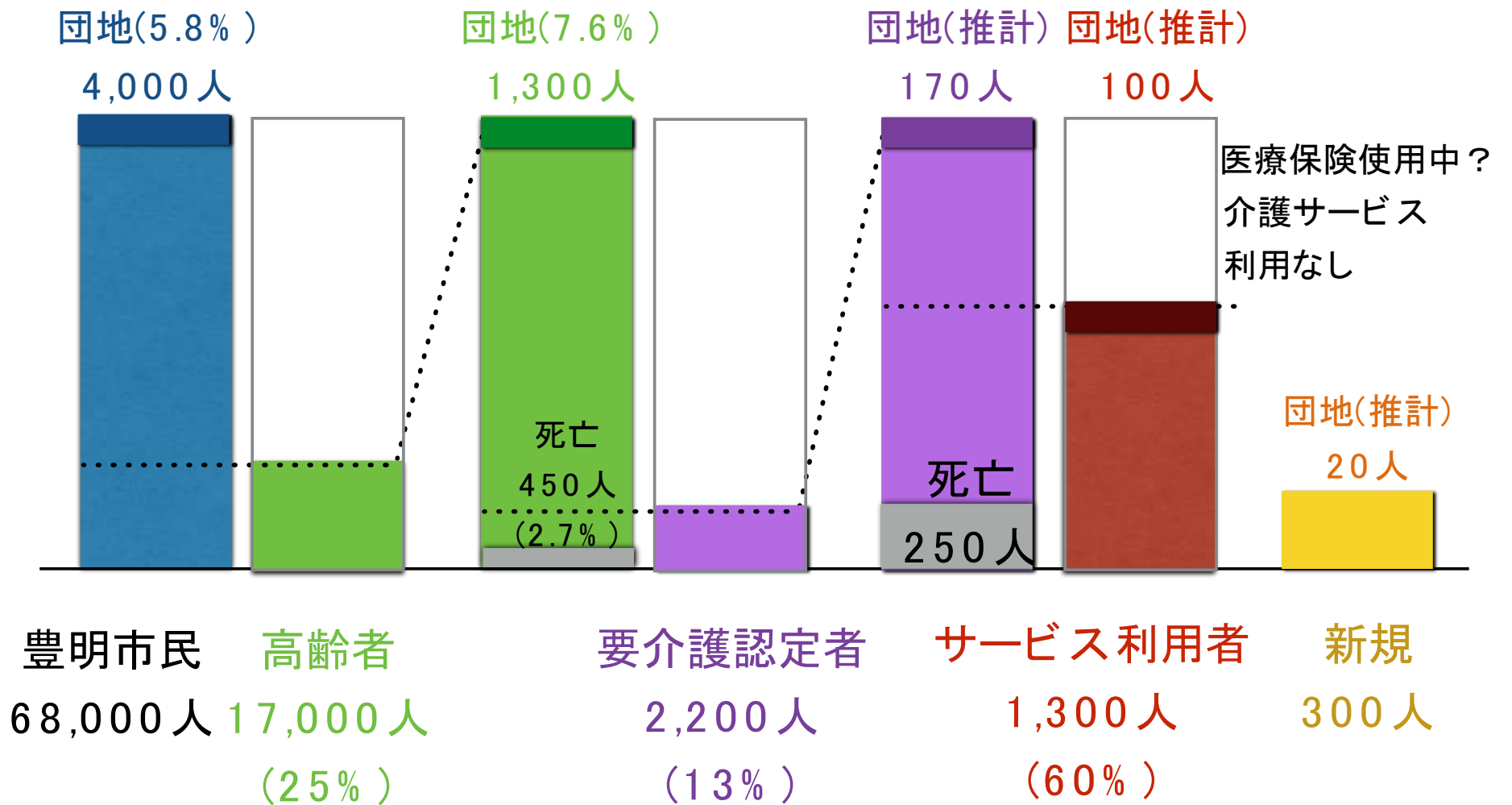
- 1 豊明市の概況
- 2 介護予防・認知症・生活支援
- 3 地域リハ・医療介護連携
- 4 豊明団地の取り組み（住まい）

豊明団地の現状

- ・ 昭和40年代 高度経済成長期に建設
55棟 5階建て エレベーター有は2棟
- ・ 居住 約 4,000人 約 2,000世帯
うち外国人 約 1,200人
- ・ うち65歳以上 約 1,200人
高齢化率 31% (除外国人 43%)
- ・ うち65歳以上独居者
約 360人 約 30% (市内平均 6%)
- ・ 今後、老老世帯、独居世帯の増加予想
- ・ 賃貸住宅ゆえのコミュニティの希薄化



団地高齢者の把握



介護保険料 市総額 約40億/年 利用者一人あたり約300万円

けやきいきいきプロジェクト

【構成・参加団体等】

- ・豊明団地自治会・老人会
- ・UR都市機構中部支社
- ・藤田保健衛生大学
- ・豊明市高齢者福祉課
- ・コープあいち とよあけ店
- ・豊明団地診療所医師
- ・UR豊明団地生活支援アドバイザー
- ・豊明市北部地域包括支援センター



プロジェクトのあゆみ

時期	実施内容
H26年4月	あいち地域包括ケアモデル事業選定
	地域懇談会（市長、自治会、高齢者福祉課）
5月～10月	検討会（3回） ・意見交換（自治会、大学、UR、行政） ・高齢者ニーズ調査
10月～	高齢者健康増進事業開始（市×大学）
12月	けやきいきいきプロジェクト発足
12月～	けやきいきいきプロジェクト会議定例開催
H27年1月～	認知症サポーター養成講座、 認知症徘徊模擬訓練、住民向け講演会
4月～	団地学生居住開始
4月24日	まちかど保健室開所
5月～	学生らによる自治会活動への参加 団地商店街との交流
H28年3月	地域包括支援センターランチ開所
4月	病後児保育室「えがお」開所 学生居住 38人体制へ
4月～	コープあいちとよあけ店 店舗直送「ふれあい便」スタート

立ち上げ準備

具体的な取組み

健康寿命サポート住宅の整備

街に、ルネッサンス



★快適さがアップします



1 洗浄便座の取付

- 温水洗浄・暖房便座が付いています。
- リモコン付き、脱臭機能付き等の多機能な機能も取り揃えています。
- ※ 取付によっては設置できない場合があります。
- ※ 狭小な便座についてもご相談ください。



★各室内に設置できます



5 安全手すりの取付

- 握りやすく手にやさしい素材の手すりです。
- 玄関・廊下・洗面所・浴室・トイレなどに取付け可能です。
- ※ 取付場所は別途料金となります。
- ※ エコリノビリティによっては設置できない場合があります。



◎ 介護保険給付対象商品

★ワンドアツーロックで安心です

2 玄関扉への補助錠の取付 (CP錠定型)

- 玄関扉に、もう一つの錠を取付け、二重の安心で、大切な家族と対面もしっかり守ります。
- CP錠定型は音響性を中心として規定した実用音圧範囲による防音性能の基準に合格した錠です。
- 赤錠と黒錠の二種類の錠があります。



★来訪者をしっかり確認できます



3 カラーモニター付インターホンへの取替

- カラーモニターで来訪者をしっかり確認できます。
- 室内でトラブルが発生したときに非常押しボタンを押すことで外部に音と光の点滅で、異常を知らせることができます。
- ※ 固定カメラはフィルムが劣化していく場合には取替工事が必要となります。
- ※ 電磁波等の多機能付インターホンが設置されている住宅にはお取替えができません。



★ドアの開閉がらくになります

4 玄関ノブをレバーハンドルに取替

- つかみやすく、らくに操作できます。
- お年寄りや力の弱い方でも開閉がしやすくなります。



◎ 介護保険給付対象商品



6 トイレ床の段差解消

- トイレの床を上げることでより出入りがらくになります。
- トイレの床もきれいにになります。
- ※ お部屋の床高によっては完全に段差が解消できない場合があります。
- ※ 写真はあくまでイメージです。

★安全で快適になります



7 和室と洋室のバリアフリー化

- 既存床の撤去がないため工事が短時間ですみます。
- 廊下側に方木や下地材の中心がある場合は、施工時に下地調整も別途行う必要があります。
- 写真はあくまでイメージです。(別途料金となります)



◎ 介護保険給付対象商品

8 浴室扉の折戸化

- 少ないスペースで閉鎖できるので出入りがらくにできます。
- 浴室内にゆとりができます。

★開閉がスムーズになります



◎ 介護保険給付対象商品





生活支援アドバイザーの配置

地域医療福祉拠点化取組み団地に生活支援アドバイザーを配置

<生活支援アドバイザーの主な役割>

- ① 高齢者相談及び福祉関係者との連携
- ② 高齢居住者に対する見守り（あんしんコール）
- ③ 地域交流イベントの開催



<あんしんコールのスキーム>



週1回、電話での安否確認を実施



安否が確認出来ない

<あんしんコール登録者>



巡回等による直接確認
状況により緊急対応へ

団地内の巡回や、コミュニティ形成イベント時など
あんしんコール登録者と直接お会いすることもあります。そういった信
頼関係から見えてくる問題も少なくありません。

まちかど保健室概要

- 開室時間** : 平日10～15時
- 料金** : 無料
- 対象** : 市内外誰でも
- 応対者** : 看護・保健師、ケアマネ
理学・作業療法士、薬剤師
- 相談方法** : 面接、電話、メール
- 相談記録** : 利用者ごとの記録簿管理
- 主な相談** : 健康不安（8割）、
薬剤、治療など
- 平均相談時間** : 30分程度
- ミニ講座** : 毎日実施



利用実績(2015.4.24～2016.8.31)

来室者 : 5,126人、健康講座受講 2,999人、
個別相談 512件

かかりつけ医ありの方が多数。

医療機関受診の前後での相談が多

い。

感想 : 理解できる言葉で説明。気軽に寄れて
じっくり聞ける点が良い。

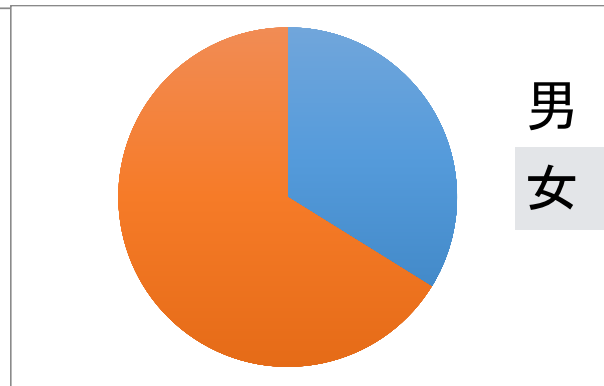
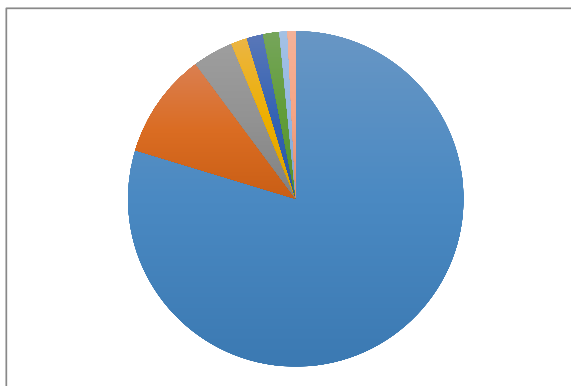
個別相談に来る方 N=128

来室相談者 %

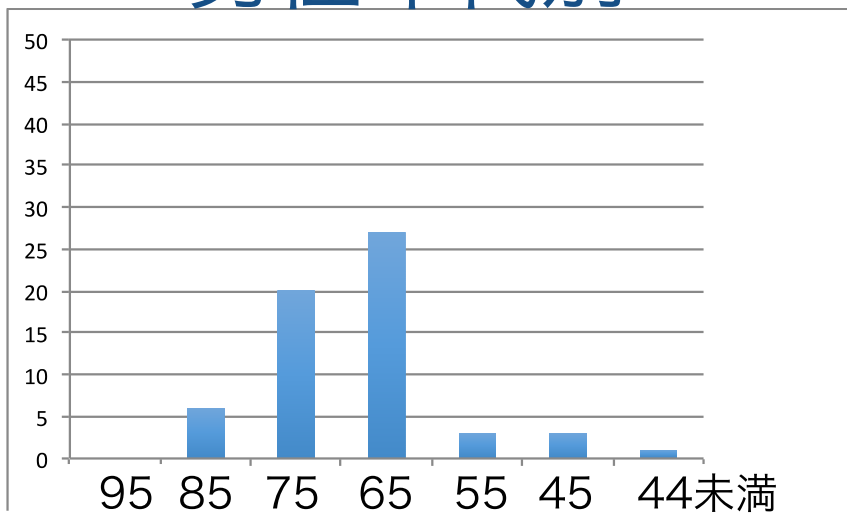
1 本人 79

2 配偶者 10

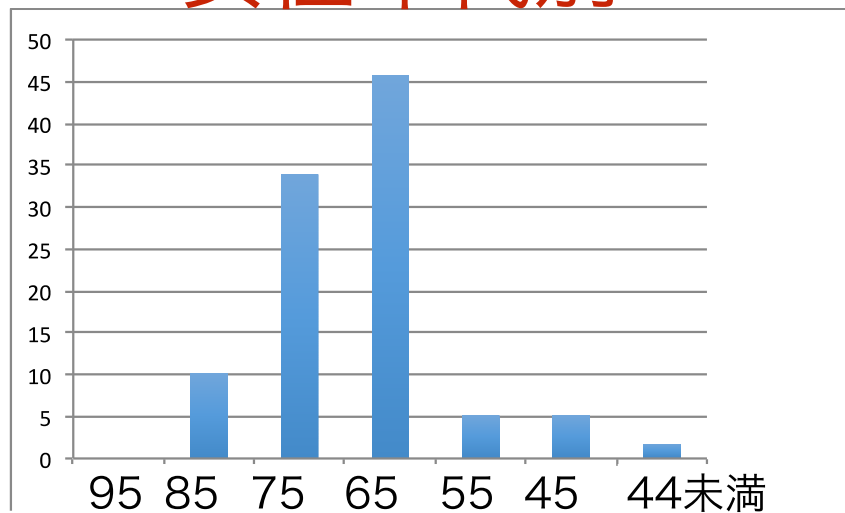
ほか 11



男性年代別

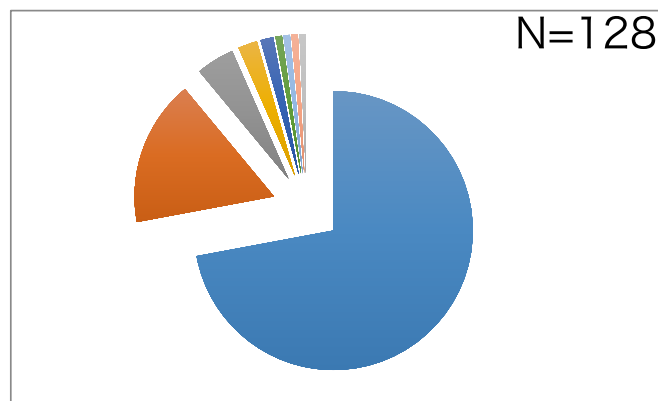


女性年代別



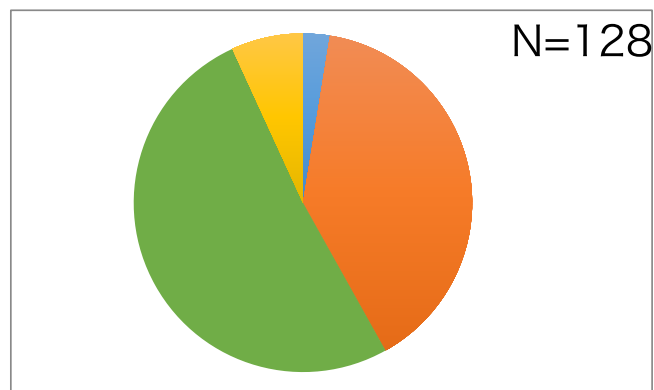
同一内容の来室回数

来室回数	%
1回	72.
2回	16.
3回	4.4
4回以上	2.2



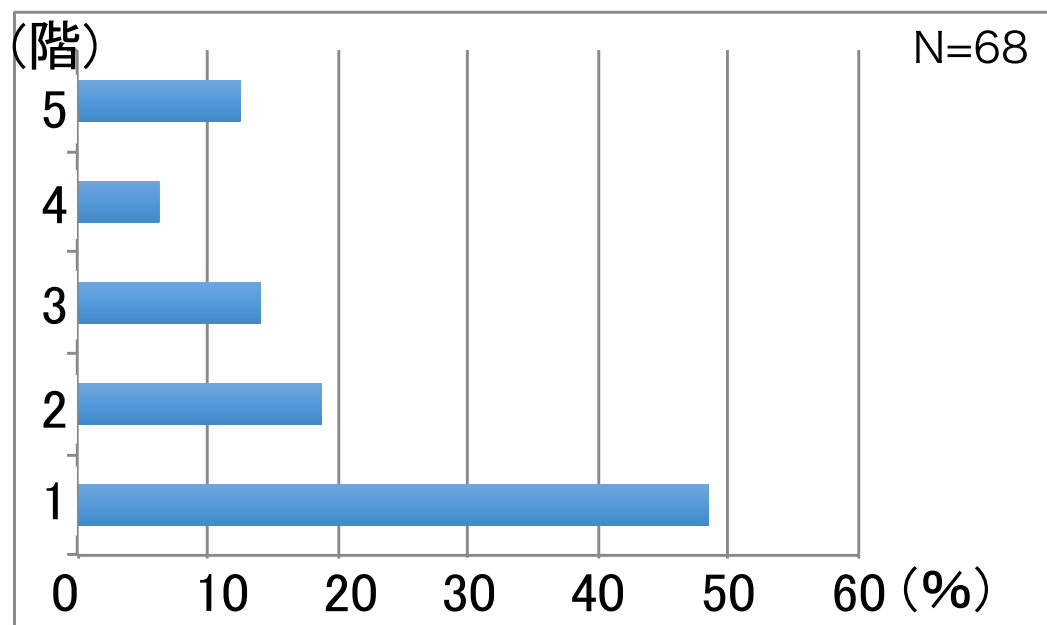
1回あたり相談時間

相談分数	%
60分以上	3
40～60	39
20～40	51
20以下	7
平均	35分



何階の住人か？

団地居住階	%
5	13
4	6
3	14
2	19
1	48



団地内の住人か？

N=128

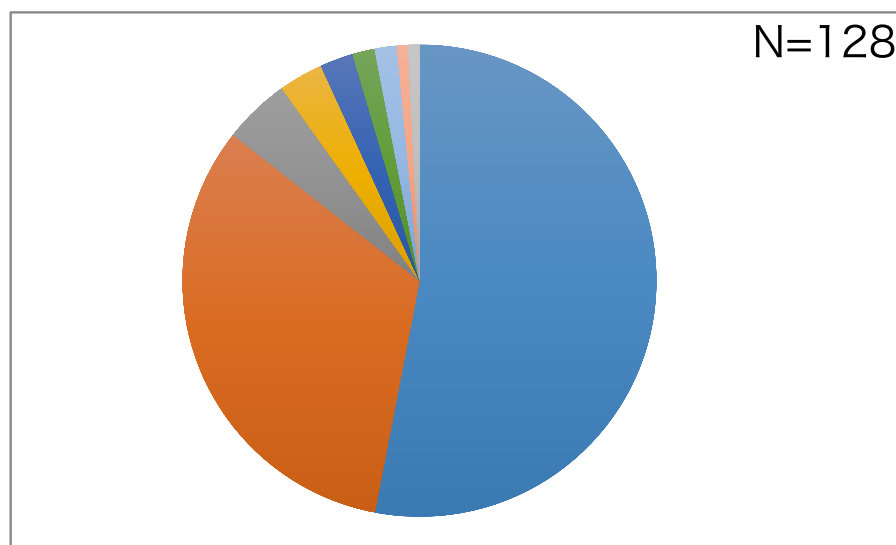
男性 68%

女性 68%

保健室での対応

(%)

対応	助言・アドバイス	53
	受診時に主治医 へ相談をすすめる	33
	新規受診すすめる	5
	地域包括に相談	3
	保健室利用へ	2
	担当ケアマネに対 応依頼	2
	行政に相談	2
	訪問看護へ	1
	団地管理事務所と 情報共有	1



認知症の早期発見 18例

交流拠点の利点と展開



来室者の声

「楽しい、笑うことが増えた」「出かけ先が増えた」
「気軽にきけるからうれしい。」「詳しく聞ける。」
「病院のどの科の先生に診て貰えば良いかわかった」



担当者の声 (医療介護資格者)

「この地域の生活者の本当の課題がみえた」
「病院では聞けない重要な課題が、次々にわかった」
「もっと多くの医療介護関係者に知ってもらいたい」

交流拠点の利点

- 1 情報が集まる、発信できる。
- 2 人の集まりや笑顔が目に見える。
- 3 地域課題が見える、聞こえる。

保健室の今後の展開

- 1 来れない方への訪問方法検討。
- 2 老人の家、公民館などに無料出張。
- 3 市外へ出張 開催要望に対応。

学生・職員の豊明団地居住

10月現在:職員学生42名が居住



カラーコーディネート・IKEA改装モデルルーム

- ・2015年 4月 学生・職員計18人居住開始
2016年～ **学生・職員42名居住体制へ**
 - ・**4 or 5階の空室が対象**、URが改装
- ・全室2DK～3DK **家賃10～20%引 家賃32,000～**
IKEAコラボ改装 カラーデザイン改装他
- ・居住条件
自治会活動、保健室活動に参加し住民と交流、地域貢献
高齢独居者との食事会、安否確認、災害時の避難誘導、清掃活動



豊明団地居住学生と自治会役員

地元高校との連携

- ・ 2016.6.16 愛知県立豊明高等学校
平成28年「明日を拓く 人材育成事業」
採択

- ・ 2016.7.30(土)
熱中症予防キャンペーン実施
高校生と大学生の合同チーム4が団地周辺住民の
約40人に啓発活動。
高校生15人 教員3人 大学生4人 教員4人

- ・ 豊明高校 860名に出張講座
「地域包括ケア」と未来の姿

- ・ 団地内で大学生と活動体験
消防訓練、独居高齢者食事会、文化祭、ウォーキング大会、もちつき大会、クリスマス会など、大学生と共催



子供むけイベント

・ 2016.6.18(土)

子供むけお楽しみ講座 80人

マジックショー クイズ 折り紙など



・ 夏休みこども寺子屋(大学生が学習指導)

2016.8~ のべ46人

・ 2016.8.9(火)

流しそうめん大会

40人

子供向けAED講習

自治会との共催



現状を理解し、まちづくりができる 新しい人材育成を一貫実施

積極的関与

社会人 地域課題解決に取り組める人材
大学生 街づくりの実践

能動的体験

高校生 ボランティアリーダーの経験
県立豊明高校との共同事業が愛知県に採択
中学生 地域ボランティアに参加

受動的体験

小学生 地域イベントに参加
唐竹・双峰小学校放課後教室との事業協力
保育園 地域イベントに楽しく参加
二村保育園との事業協力

第1回

主催：藤田保健衛生大学地域包括ケア中核センター
協力：豊明市 UR都市機構中部支社

地域包括ケア研究フォーラム

大会テーマ：「団地 × 行政 × 大学の協力による地域包括ケアとその可能性」

開催
日時

2016年 8月27日(土)・28日(日)

8月27日 12:00 受付開始

- ・ 13:00～17:40 ①研究フォーラム
- ・ 14:20～15:30 ②学生交流セッション (参加要予約、聴講自由)
- ・ 18:10～19:30 ③懇親会 (要予約) (大学構内レストピアふじた)

8月28日

- ・ 10:00～12:00 ④豊明団地 現地見学会 (要予約)

全国の団地・大学・行政
の取り組みや
医療・介護連携など



会場の様子



学生による未来の団地発表

456名の参加

大学、行政、UR、医療、学生
介護関係者など多彩

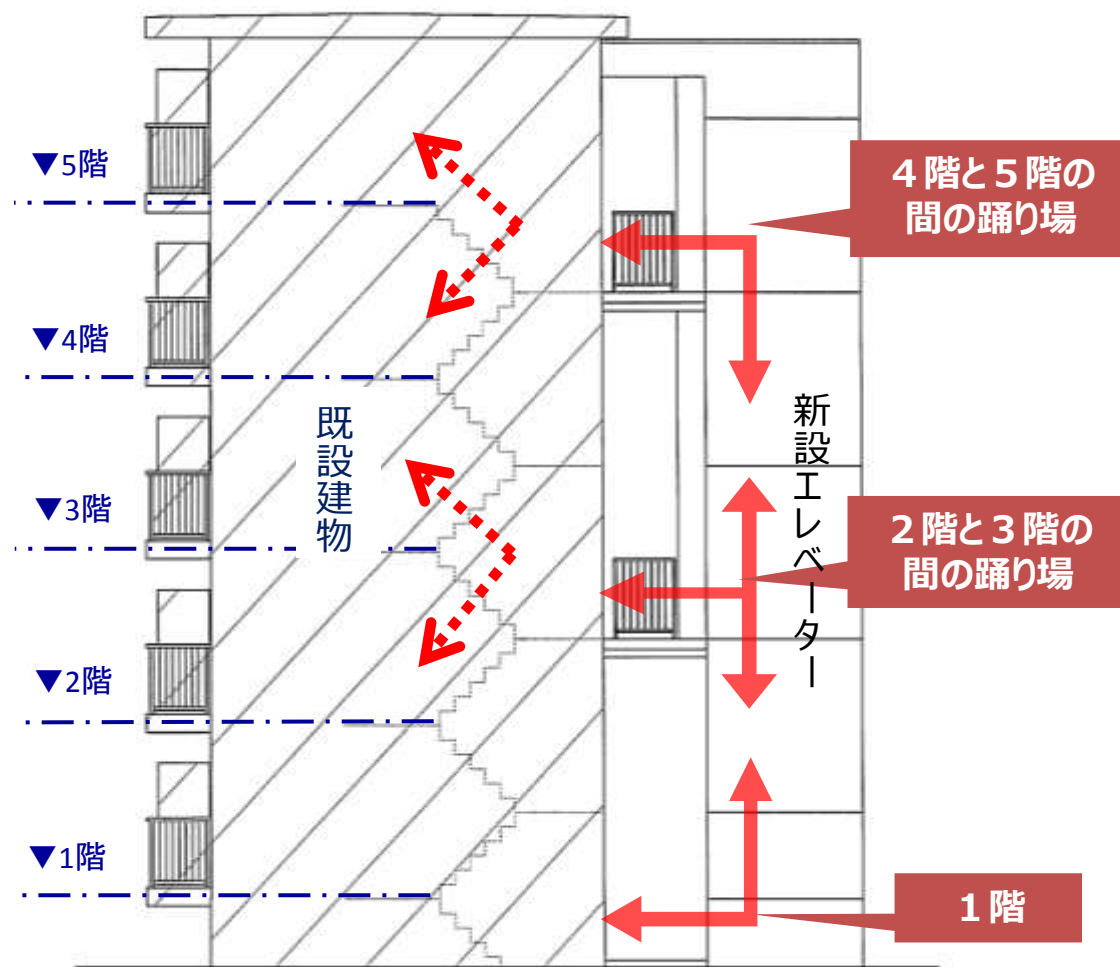
中層階段室型住棟へのエレベーター設置

街に、ルネッサンス



UR都市機構

- 1、3号棟に4基ずつ、計8基計画
- 5階建て建物の階段の外側にエレベーターを設置します。
- 停止階は、1階、2階と3階の間の踊り場、4階と5階の間の踊り場になります（踊り場着床型）
- エレベーターは4人乗になります。



エレベーター施工例

エレベーター設置イメージ図

豊明団地集会所棟改修 医療福祉拠点施設「けやきテラス」へ

- ・地域医療連携センター（在宅医療介護連携支援センター施設）
- ・住宅用介護ロボットモデルルーム R S H（Robotic Smart Home）
- ・地域包括支援センター出張所
- ・コミュニティスペース

住宅用介護ロボット
モデルルーム（RSH）

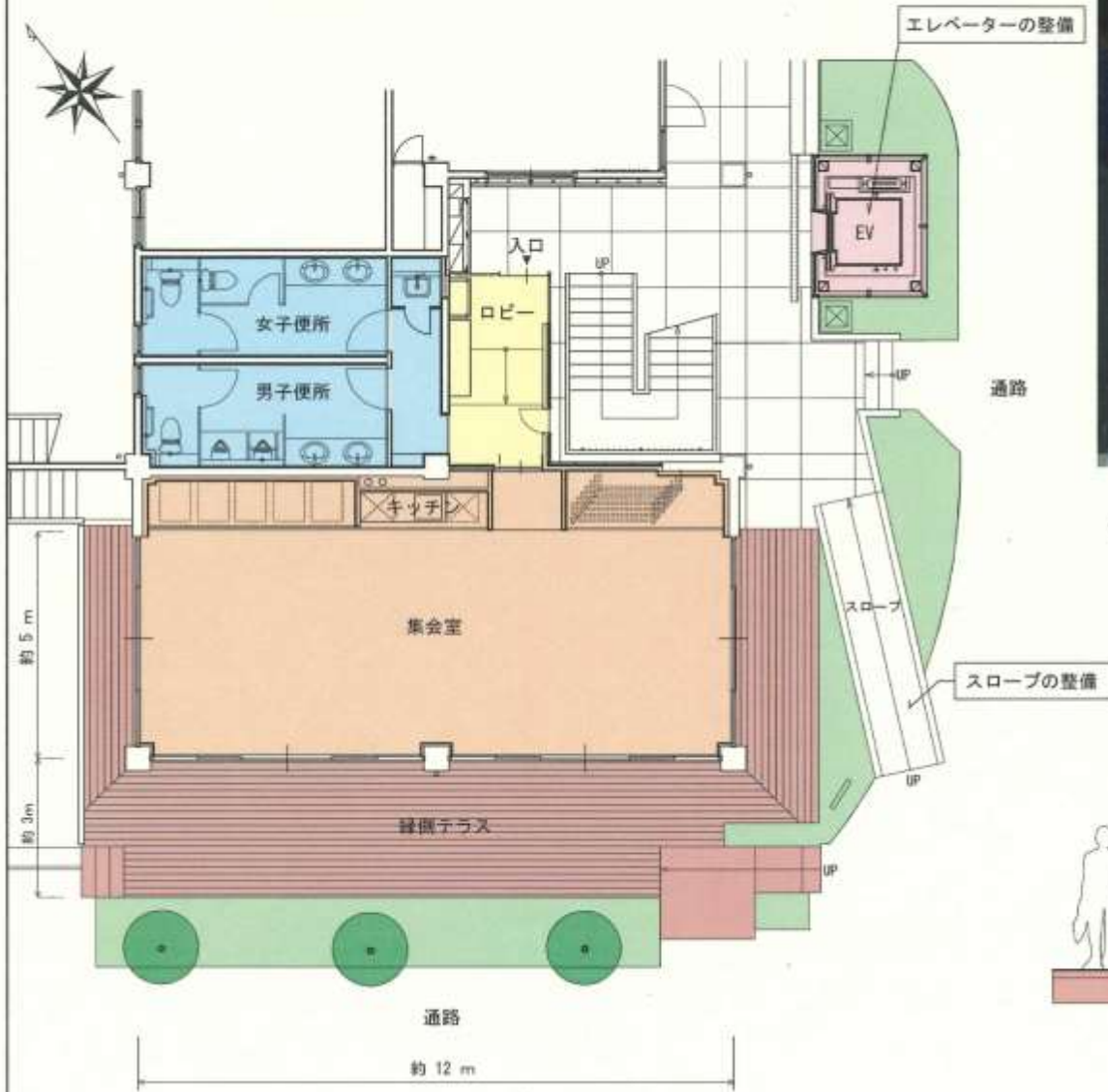
豊明東郷
地域医療連携センター

コミュニティスペース

地域包括支援センター
出張所

集会室改修計画

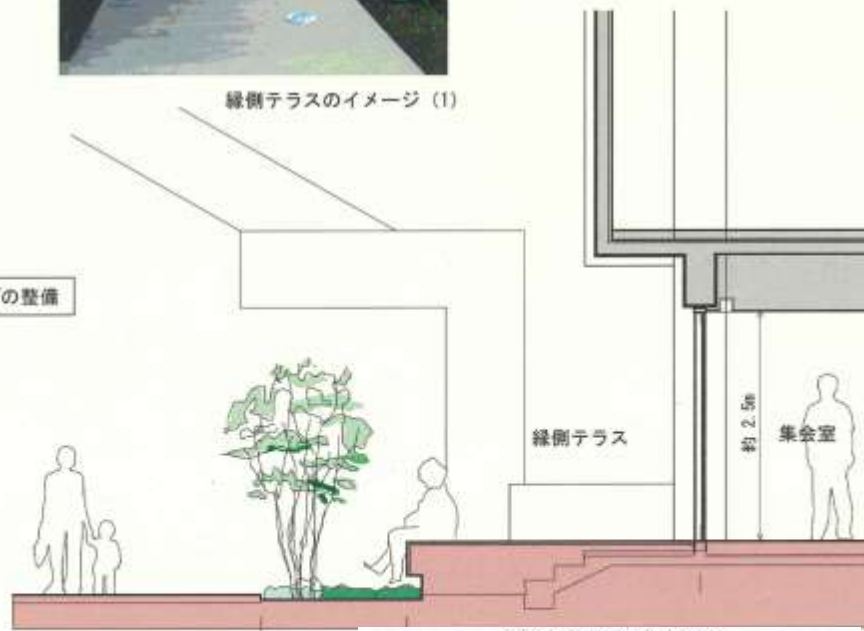
屋外テラスと一体的に利用できる開放感溢れる明るい集会室を整備します。



緑側テラスのイメージ (1)



緑側テラスのイメージ (2)



街に、ルネッサンス



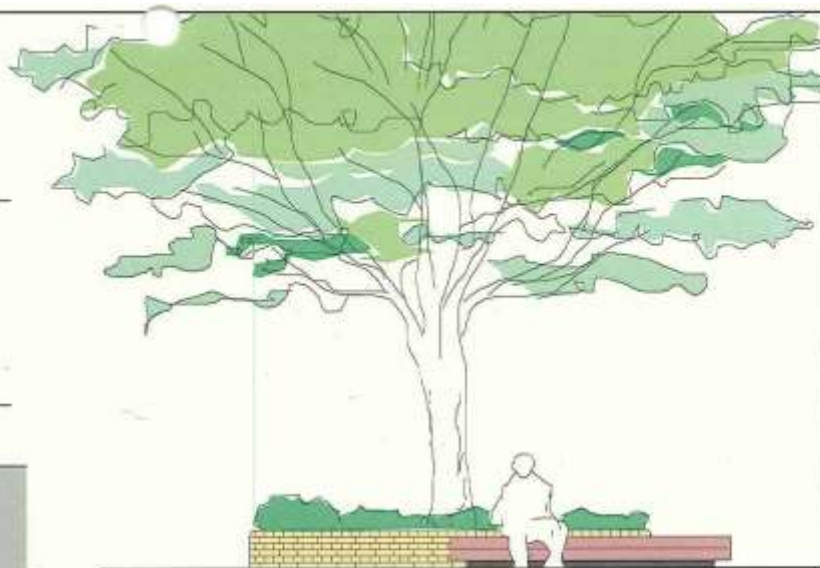
UR都市機構

広場・ファニチャーの整備計画

集会室廻りの広場に人々が集い憩えるベンチ等を整備します。



凡例 : 新規に整備するテラス・ベンチ



ファニチャーイメージ



街に、ルネッサンス



UR都市機構



Robotic Smart Home

豊明団地を舞台に、移乗介助ロボット、生活支援機器を備えた「高齢者向けスマートホーム」を居住空間ごと開発するプロジェクト



移乗・移動ロボット



移乗ケアアシストロボット



サーバントロボット



コミュニケーション多方向通信テレビ 29

見守りロボット



空間デザイン

ロボットが活躍できる
空間性をデザイン
団地住人に居住してもらい実証



移乗移動支援

介護支援ロボットのうち
必須かつ難課題である
移乗介助ロボットを製品化



サーバント

総合支援のための
操作代行とIoT連携役となる
サーバントロボットを製品化



コミュニケーション支援

居ながらにして外界に繋がり
参加型健康増進を支援する
テレビ型機器を製品化



実証実験

健康長寿支援ロボットセンターが
ポータルとなりロボット開発者に
真の在宅実証機会を提供



地域医療 介護

住まい 地域

子育て
保育

ミスト
コミュニ
ティ

自治会
活動

教育 人材確保

サービス 次世代産業



豊明団地 けやきいきいきプロジェクト

地域包括ケアをキーワードに 地域資源の持つ力を結集



健康福祉部 高齢者福祉課 地域ケア推進係
E-mail : koreifu@city.toyoake.lg.jp
TEL : 0562-92-1261
豊明市新田町子持松1番地1
<https://www.city.toyoake.lg.jp/>



街に、ルネッサンス



UR都市機構

中部支社

住宅経営部ストック再編事業チーム

TEL : 052-968-3333 (代表)

名古屋市中区錦三丁目5番27号 錦中央ビル

<http://www.ur-net.go.jp/central/>



藤田保健衛生大学
FUJITA HEALTH UNIVERSITY

地域包括ケア中核センター

E-mail : houkan@fjita-hu.ac.jp

TEL : 0562-93-3707

豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1 番地98

<https://www.fjita-hu.ac.jp/care/>